橿考研特別展「 5 世紀のヤマト展」　と畝傍山からの展望　　2013.5.25.

5 世紀初期ヤマト王権時代のヤマトと河内・大阪平野

畝傍山から眺めた奈良盆地南西部と金剛・葛城・二上山の山並み

畝傍山から眺めた北東部　天香具山

奈良盆地の東側飛鳥奥山から眺めた甘樫丘・雷丘と右端畝傍山　背後に葛城・金剛の連山

1. **橿考研付属博物館特別展　5 世紀のヤマト　～まほろばの世界～**

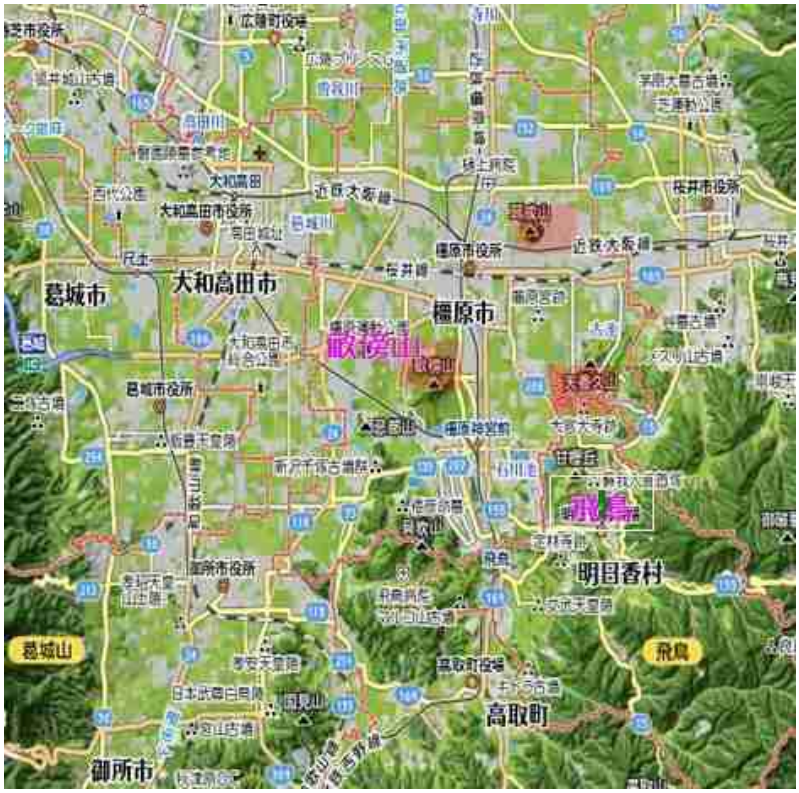
   図録からの内容の再整理　by Mutsu Nakanishi

2. **大和三山「畝傍山」から　国のまほろば　奈良盆地を眺める**

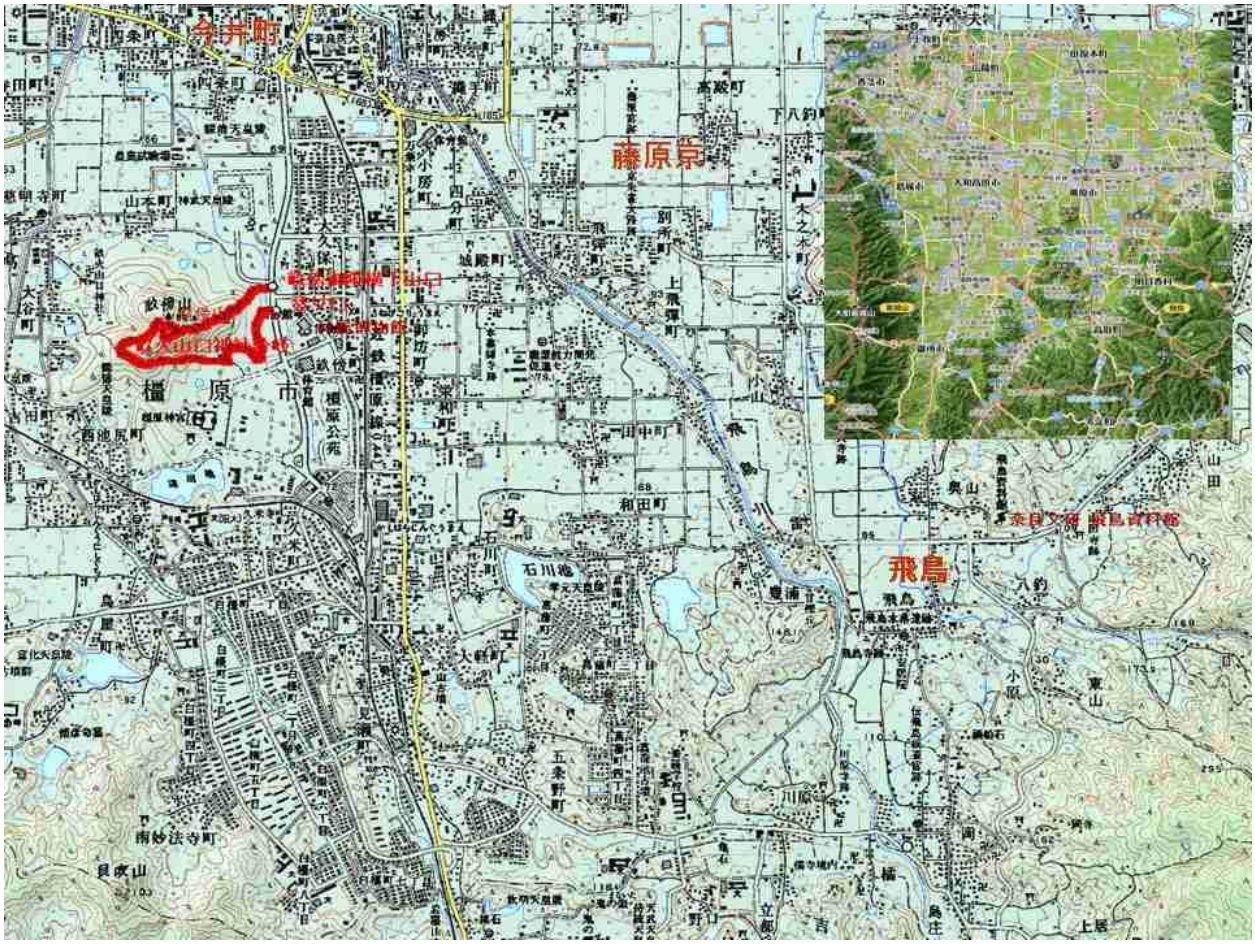
大和三山のひとつ「畝傍山」の麓にある橿考研付属博物館で特別展「5 世紀のヤマト」展が開催されているのを知って、3 世紀の邪馬台国の後、奈良盆地南部三輪山周辺を王城の地とする初期ヤマト王権が展開してゆく古墳時代の中期・後期を勉強するいい機会と 5 月 25 日橿原へ出かけました。
また、前々から、一度登って周囲を見渡たしたかった大和三山「畝傍山」へ登って、奈良盆地を展望してきました。

特別展では 5 世紀の初期ヤマト王権の時代を支えた奈良　盆地と河内・大阪平野の二つの地域を並べて、それぞれ　が果した役割を遺跡の出土遺構・遺物から展望する展示　で、非常にわかりやすく理解が深まりました。
関西でのこの頃の展示というと　すぐに遺構・遺物が天皇・豪族など人物特定に走り、時代と地域での事象がごちゃまぜで、わかりにくいのが常。 うれしい展示でした。
私には知りたかった葛城山麓に広がる南郷遺跡群のここの役割や鉄遺物が見られたこと。
また、河内と奈良　二つの地域出土遺跡の遺構・遺物が同時に比較できたのがうれしい。

先取の気風に富んだ河内の鉄生産工房で
次々と新しいタイプの農工具があみだされ、
新しい時代を切り開く。 一方奈良盆地では
伝統的な刀剣・武具に技を織り込んでゆく。
実用鉄器にもこんなに違う視点があるのかと
面白い河内と奈良盆地並存の謎解きでした。



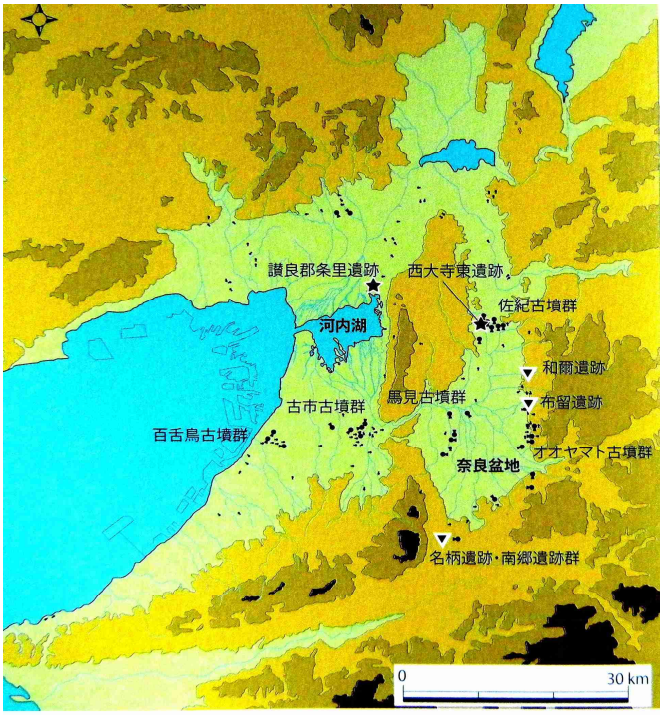
また、麓から 30 分ほどで、登った畝傍山の頂上からは初期ヤマト王権の王城の地がすぐそこに。
新緑に包まれて、西に金剛・葛城・二上山とづづき、奈良盆地の西の壁を背に広がる奈良盆地南西部の葛城・忍海から北側盆地中央部の広大な平野部が鳥瞰でき、反対側の東には天香具山から甘樫丘の丘陵の奥に広がる飛鳥が展望できました。
また、畝傍山のすぐ北側の平野部は寺内町として栄えた「今井町」 久しぶりに飛鳥へも歩いて、帰りに「今井町」にも立ち寄って、満足一杯の一日でした。


橿原考古学研究所附属博物館
藤原京
飛鳥
橿原市

春季特別展
5世紀のヤマト
～まほろばの世界～
2013年
4月20日(土)～6月16日(日)
橿原考古学研究所附属博物館
THE MUSEUM ARCHAEOLOGICAL INSTITUTE OF KASHIHARA, NARA PREFECTURE
5世紀のヤマト ～まほろばの世界～
研究講座
列品解説
遺跡見学会 「馬見古墳群を歩く」
休館日
開館時間
入館料
「大和を掘る 31」－2012年度
橿原考古学研究所附属博物館

1. 橿考研付属博物館特別展　5世紀のヤマト　～ まほろばの世界 ～

図録からの内容の再整理　by Mutsu Nakanishi



大型古墳群と巨大集落・「王宮」関連遺跡

5 世紀は**「巨大古墳の世紀」**と呼ばれ、大阪平野南部の古市・百舌古墳群には大型の前方後円墳が築かれる。

- **大阪平野・河内**では　**百舌古墳群　日本列島最大規模の墳丘長 486m の大仙古墳**（仁徳天皇陵）
  そして**古市古墳群　列島第 2 位の規模を持つ墳丘長 415m の誉田御廟山古墳**（応神天皇陵）などが築かれ、
  盾形の形態を持つ多重の周濠と幅の広い外堤をそなえ、周濠の内外には小規模古墳を築く。
  この規模とスケールは当時の大王の墳墓には間違いないが、特定人物に対応させるのは難しい。

- **一方　王宮の地　奈良盆地内**で、3 世紀いち早く前方後円墳が成立した地域は東南部の**オオヤマト古墳群**。
  しかし、この地に 5 世紀に巨大前方後円墳が築造されることはなかったが、
  盆地北部の**佐紀古墳群や盆地西部の馬見古墳群には巨大前方後円墳が築造され、**
  盆地内に王宮がとどまっていることの裏付けか??
  - ◆ **奈良盆地西北部の南郷遺跡群は 5 世紀代の集落範囲が 2 平方キロメートルに及ぶ大型建物を有する大集落**で、遺跡に近在して　墳丘長 238m の前方後円墳　室宮山古墳があり、ダム状遺溝を有する導水設備が出土。
  - ◆ また、**奈良盆地北部の佐紀古墳群に近在してこの古墳群に関連する大型建物遺構が西大寺東遺跡**でも見つかっている。

これらのことは、河内に巨大古墳を築く巨大勢力が出現していることを示す一方、奈良盆地内にも王権を支える大きな勢力が奈良盆地内にあったことを示している。
さらに　河内湖の北岸には　5　世紀代の百済系渡来集団の居住地（讃良郡条里遺跡）が確認されていて、渡来人・先進技術の受け入れ窓口として河内湖が機能していたことが推察され、ここを通じて、数多くの渡来集団が大阪平野（河内）・奈良盆地に居住した。

河内・大阪平野に巨大古墳が築かれる 5 世紀　政権が交代し、ヤマトから河内へ政権が移ったとする考え方もあるが、この特別展では、「ヤマトと大阪平野・河内がそれぞれ機能し、王墓は動いたが、2 つの地域が政治の中心として並立し、王宮がヤマトを出ることはなかった」との立場で展示が組み立てられていました。

《奈良盆地　佐紀古墳群　と河内　古市古墳群の巨大古墳に見る副葬品の格納庫（陪塚）の存在》

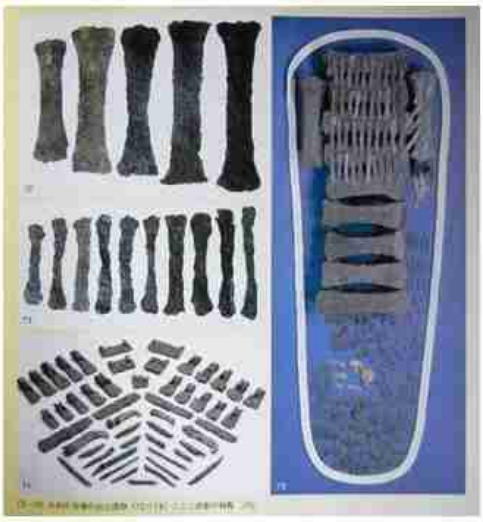
王権を支える有力勢力の存在と力の象徴　実用鉄器と鉄器素材

この時代まだ、国内で製鉄ができず、朝鮮半島から鉄素材を輸入していた。 この鉄素材の調達とこれを素材とした鉄器生産工房での武器・武具・農工具の生産が王権をささえる源となっていたのだろう。

5世紀の巨大古墳には　大量の鉄製品など　副葬品の格納庫（陪塚）を持つものが存在

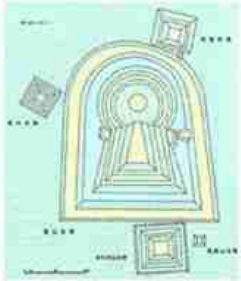
佐紀古墳群　ウワナベ古墳　陪塚　大和6号墳

大和6号墳は、佐紀古墳群のウワナベ古墳の陪塚とされる5世紀中葉の直径25mの円墳で、墳頂部部から多数の鉄製品を埋納された施設が見つかった。人体埋葬のない異物格納庫で、西側に合計872点の大小鉄テイを重ねあわせ、東側に718点の小型農工具・滑石模造品6点の斧形1点の鎌形が出土。鉄テイの出土量は全国一で、朝鮮半島南部から輸入された鉄素材であると考えられている。



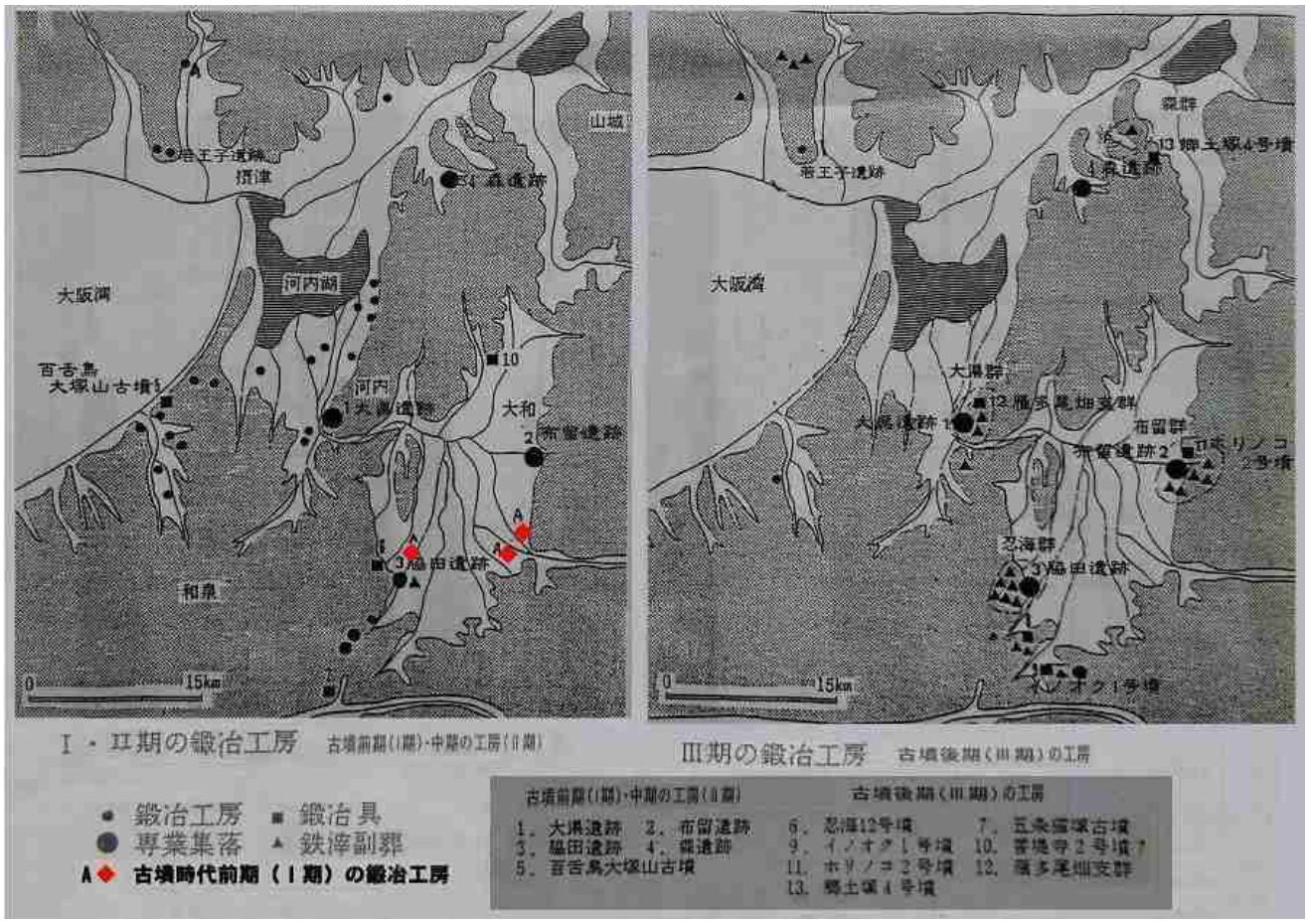
古市古墳群　墓山古墳　陪塚　西墓山古墳

西墓山古墳は、一辺18メートルの方墳で、墳端に円筒埴輪列をめぐらせ、斜面には葺石を施していました。古墳の中央部には、8×4メートルの大きな穴を掘り、内部に長さ6メートル、幅60センチの細長い木箱2つを東西に並べていました。東側の箱には、刀や剣といった200点を超える武器、西側の箱には、鉇や鎌、ヤリガンナといった農工具類2000点以上が納められていました。
この施設は西　墓山古墳のほぼ中心に作られており、人体を埋葬した痕跡は見当たりませんでした。
　つまり西墓山古墳は、当初から人体の埋葬を目的とせず、鉄製品の埋納を目的とした「副葬用陪塚」として計画されたものと考えられる。



木箱は、石や粘土などで特別な保護施設を作らず、大きな墓穴の中に直接置いて埋め戻されていた。木箱は長方体の箱形をしており、その中にはびっしりと鉄製品が納められていたこと。東側の箱には、鉄の刀と剣が5群に分けて入れられ、南北両端には短剣が入っていました

《　5世紀　王権を支えた大王の主要生産工房　と　有力豪族の本拠地　》

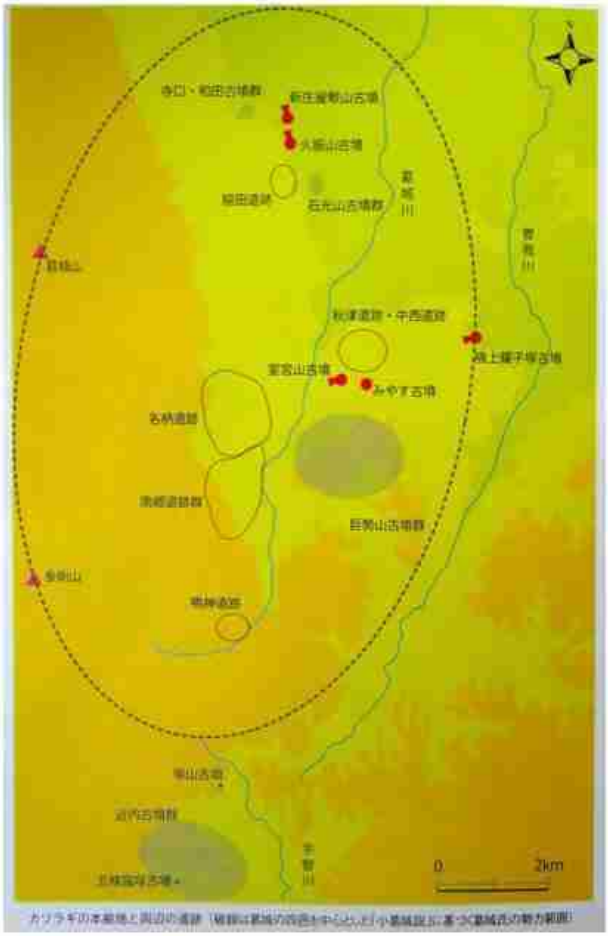


王権を支えた畿内の鍛冶工房群

◆ 5世紀　王権を支えた有力豪族の本拠地の鉄(1)　和爾氏の本拠地　和爾遺跡 & ベンショ塚古墳

奈良盆地の北東部天理市和爾町・森本町に跨る和爾遺跡その北には奈良市窪之庄町・天理市森本町に跨る森本・窪之庄遺跡がある。全体が大規模な集落域ではないが、弥生の終わりから古墳時代にかけて種々の遺構・遺物が点在分布。この2平方キロメートルの域は大王と親縁関係のある和爾氏の本拠地。
5世紀代では大型建物や井戸・河跡が出土。特にこの丘陵頂部からは「祭殿」・「高殿」の性格を持つ3棟の掘立建物が出土している。
また、周辺の墳丘長70mの前方後円墳　ベンショ塚古墳からは鉄製の甲冑・馬具・農工具などが出土。

◆ 5世紀 王権を支えた有力豪族の本拠地の鉄(2)　葛城氏の本拠地 葛城 南郷遺跡群



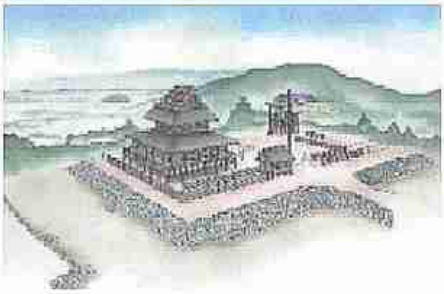
カツラギの本拠地と周辺の遺跡（橿原は葛城の西色をやらしたと小葛城説に基づく葛城氏の勢力範囲）

奈良盆地西南部の葛城山麓・金剛山麓は5世紀代の集落遺跡や古墳が集中する。葛城山東麓に脇田集落遺跡　前方後円墳として、新庄屋敷山古墳・火振山古墳があり、また、寺口・和田古墳群、石光寺古墳群、寺口忍海古墳群などの群集墳がある。　金剛山東麓には名柄遺跡と南郷遺跡群　前方後円墳としては室宮山古墳がある。
この地域周辺部にある掖上鑵子塚古墳は室宮山古墳に引き続いて築造された古墳で、南郷遺跡群に並行する年代に築造。

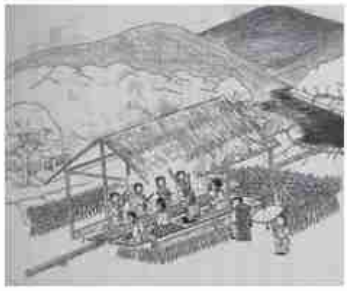
特に名柄遺跡と南郷遺跡群は大王に比肩するほどの権力を持っていたと考えられる葛城氏の本拠地である。
脇田集落遺跡内で鍛冶関連遺物が出土し、鉄器生産が行われていた。同じ鉄遺物が出土する寺口・忍海古墳群と関連があると見られ、また、韓式系軟質土器の出土から渡来系の鉄器生産工人と関係が深い。

南郷遺跡群では5世紀代さまざまな特徴を持つ施設・建物が出土。
首長の高殿・祭殿と導水設備・・・極楽寺ヒビキ遺跡・南郷安田遺跡・南郷大東遺跡
首長の居住地・・・多田桧木本遺跡　　武器生産等の複合工房・・・南郷角田遺跡
大型倉庫群・・・井戸大田台遺跡
手工業生産の指導中間層の居所・・・南郷柳原遺跡
鉄器生産・窯業生産・ガラス生産など手工業生産に携わった一般者居所・・・下茶屋カマ田遺跡・南郷千部遺跡・南郷生家遺跡・南郷田鶴遺跡・佐田杣ノ木遺跡
佐田クノ木遺跡・林遺跡・井戸池田遺跡
一般層の墓地・・・南郷九山遺跡・南郷岩下遺跡

金剛・葛城山の東山麓　葛城氏の鍛冶生産工房群　南郷遺跡分布図　（図面上が北）



極楽寺ヒビキ遺跡「祭殿」



南郷大東遺跡導水設備

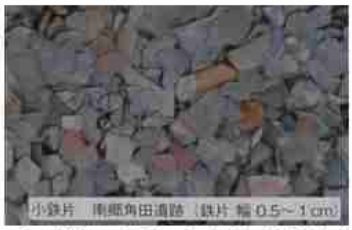
南郷安田遺跡「高殿」

南郷遺跡群　遺跡群を見下ろす南端高台にある豪族（葛城氏）の居館地域

南郷遺跡群での鉄器生産・窯業生産・ガラス生産など手工業生産

複合工房の遺物　南郷角田遺跡（中央 小札片 長さ3cm）

中央左下 銀滴　中央上 ガラス製品・ガラス滓　左下 銅滴・銅滓



小鉄片　南郷角田遺跡（鉄片 幅 0.5～1cm）

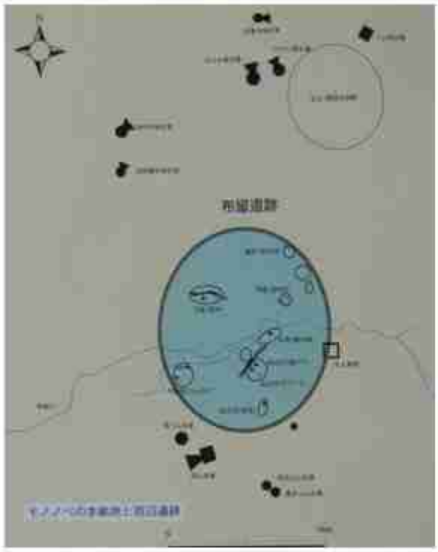
角田遺跡の工房内でもっとも多く確認されたのが。小鉄片で総重量1kg 小さい穴があいたものもある鍛造剥片。
この遺跡からは鞴・羽口が出土しないことから、鍛造だけが行われていただけではない。

ガラス小玉の鋳型
佐田柚の木遺跡（幅2.4cm）

渡来人　韓式軟質土器・甑

百済系甑

◆ 5世紀　王権を支えた有力豪族の本拠地の鉄(3)　　物部氏の本拠地　布留　布留遺跡



布留遺跡は奈良盆地東南部の天理市布留町・三島町・杣之内町に広がる縄文～江戸時代までの複合遺跡。古墳時代には広大な範囲で集落が広がり、5世紀～6世紀後半に最盛期を迎え、南郷遺跡と並ぶ巨大集落遺跡。6世紀の政治の帰趨を握った物部氏の本拠地である。

南よりの杣之内(樋ノ下・ドウトウ)地区からは大型建物と大溝、杣之内アゼクラ地区から居館遺構。　豊井(宇久保)地区から祭祀関連遺物。
遺跡内各所から手工業関連遺物が出土しているが、とりわけ　三島・里中地区では武器生産を行っていたと考えられる。

渡来人　陶質土器・高杯
典型的な伽耶系土器

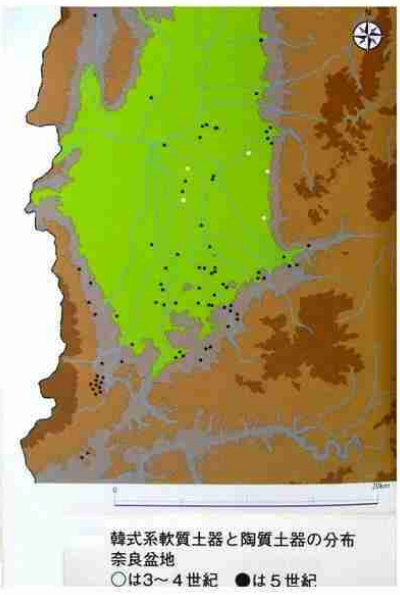
《 韓式土器の分布と渡来人 》

遺跡内から出土する韓式系軟質土器や陶質土器とその関連資料は　朝鮮半島系渡来人居住した証明

河内湖周辺では馬飼集団の居住地蔀屋北遺跡のほか　長原遺跡、陶邑古窯群周辺に集中し、渡来人が生産技術の移植に深くかかわったと考えられる。

奈良盆地ではカツラギ・モノノベの有力豪族の本拠地での生産活動にかかわったほか、盆地中央部・南部の土地開発に深くかかわったと理解される。

近畿地方中央部における韓式系軟質土器の分布



私にとってはブラックボックスだった 5 世紀　古墳と集落そして地域と大王の関係がおなじ視点で、統一整理されて展示されていて　初期ヤマト王権当時の畿内の実用鉄器の動きがわかりやすく整理できたのが一番の収穫。

特に南郷遺跡群の各遺跡の役割と出土品が丁寧に展示紹介され、遺跡内のつながりを知ることができました。

また、大阪平野の古墳群や生産遺跡と王宮のある奈良盆地の関係の見方を知りえたのも大きな収穫。

ここ数年何度となく関西各地の博物館で開かれてきた大和初期王権についての特別展・企画展が開催され、鉄をキーワードにして理解したい私には　どうもしっくり行かぬことも多かったのですが、今　図録を引っ張り出して　今回の特別展の図録とをあわせて見ることで、疑問もいくつか解けてうれしい。

鉄が日本の国づくりに果たした役割　特に畿内の実用鉄器の姿が自分なりに理解できてうれしい特別展でした。

2013. 6. 1. by Mutsu Nakanishi

【整理資料】

橿考研付属博物館　2013　春季特別展　図録 「5 世紀のヤマト　～まほろばの世界～」

【参考図録】

1. **近つ飛鳥博物館平成 22 年度秋季特別展　図録 「鉄とヤマト王権　－　邪馬台国から百舌鳥・古市古墳群の時代へ」**
2. **近つ飛鳥博物館平成 20 年度冬季特別展　図録 「百舌鳥・古市大古墳群展　-巨大古墳の時代-　」**
3. **天理参考館　2012 特別展　図録 「大布留遺跡展」**
4. **高槻市しろあと歴史館　秋季特別展　図麓 「三島古墳群の成立　－　初期ヤマト政権と淀川　－　」**

【和鉄の道・Iron Road】

1. **初期ヤマト王権を支えた物部氏の本拠地「布留遺跡」再訪 Walk　2012.5.19.**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron05.pdf
2. **古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ　Country Walk**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron15.pdf
3. **金剛・葛城　山麓　葛城氏の鍛冶工房「忍海」　渡来人が鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf
4. **「鉄の　5,6 世紀」大和の日本統一を支えた大規模専業鍛冶工房　大県製鉄遺跡探訪**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron12.pdf
5. **鉄の山「三輪山」とその山麓　初期大和政権が王城の地に求めた産鉄の地**
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron08.pdf

ほか

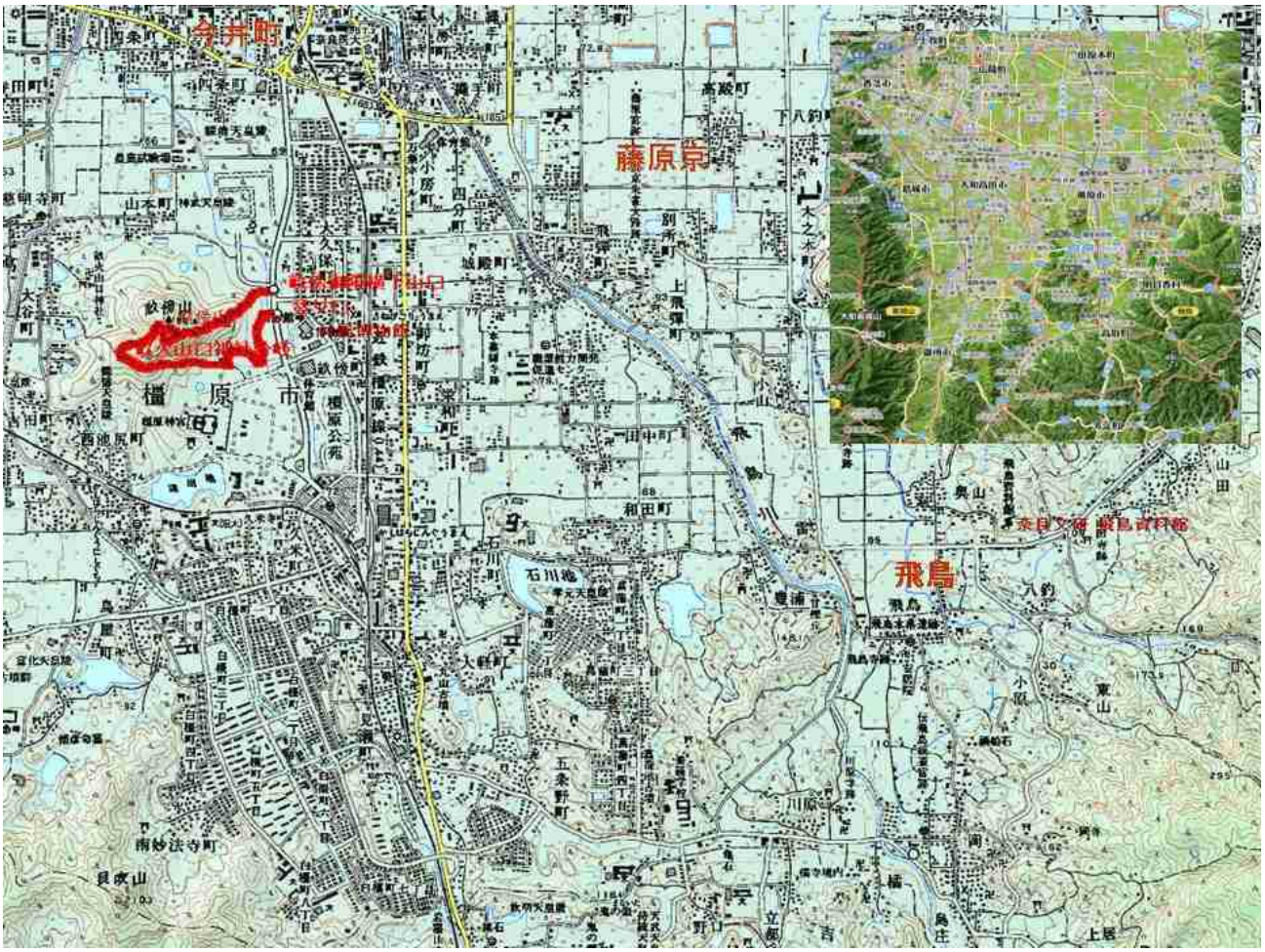
【写真アルバム】

2.　大和三山「畝傍山」から　国のまほろば　奈良盆地を眺める

畝傍山から眺めた奈良盆地南西部と金剛・葛城・二上山の山並み

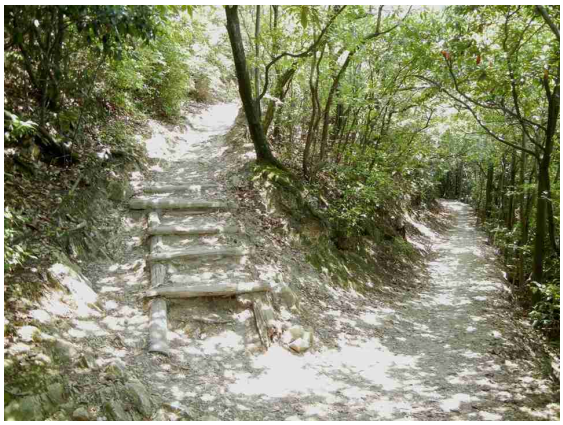
畝傍山から眺めた北東部　天香具山

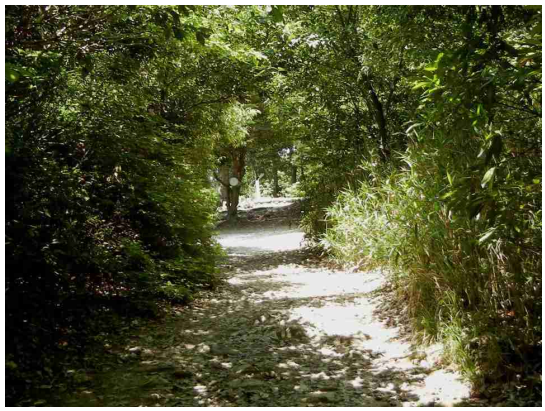
奈良盆地の東側飛鳥奥山から眺めた甘樫丘・雷丘と右端畝傍山　背後に葛城・金剛の連山



畝傍御陵前南北の広い道路　池田神社の境内の奥に畝傍山登山口がありました

名勝 大和三山 畝傍山
平成十七年七月十四日 文部科学省指定
奈良盆地の南部に位置する、香具山（一五二・四m）、畝傍山（一九九・二m）、耳成山（一三九・七m）の三つの小高い山を総称し、大和三山と呼びます。香具山は桜井市の多武峰から北西に延びた尾根が浸食により切り離され小丘陵として残存したもので、畝傍山と耳成山は盆地から聳えるいわゆる死火山です。
三つの山は古来、有力氏族の祖神など、この地方に住み着いた神々が鎮まる地として神聖視され、その山中や麓に天香山神社、畝火山口坐神社、耳成山口神社などが祀られてきました。また、皇宮造営の好適地ともされ、特に藤原宮の造営に当たっては、東・西・北の三方にそれぞれ香具山・畝傍山・耳成山が位置する立地が、宮都を営むうえでの重要な条件にされたと考えられています。
大和三山を詠んだ和歌は多く、重要な歌枕として観賞上の地位を確立したほか、近世の地誌、案内記、紀行文などでも紹介され、万葉世界を代表する名所として、広く知れわたるようになりました。
畝傍山は大和三山の中で最も高い山で、瀬戸内火山帯に属する死火山が、二次的な浸食をうけたことにより現在の形となったものです。記紀によると、畝傍山の麓は初代天皇と伝えられる神武天皇が宮をひらいたところとされ、万葉集にもそのような歌が残っています。
畝傍山を詠んだ万葉歌
玉襷 畝火の山の 橿原の
日知の御代ゆ【馬は云はく、宮所】
生れましし 神の尽 (巻一・二九)
玉襷 美しい襷を掛けるのを「うなね」にかけるのを「畝火」の枕詞
日知 神武天皇のこと。「日知」は東方の日を知る意で、広く聖天子をいう。
橿原市教育委員会
奈良森林管理事務所
田原本町
桜井市
大和高田市
橿原市
葛城市
明日香村
高取町
名勝 大和三山 畝傍山
平成十八年三月建設





畝傍山山頂部　畝火山口神社跡　　2013.5.25.

畝傍山頂　2013.5.25.

畝傍山山頂より西側　奈良盆地　南西部の御所方面　金剛山・葛城山山麓

畝傍山山頂より　東側　天香具山･飛鳥方面

畝傍山山頂より　北側　　奈良盆地中央部　八木方面

奈良盆地西南部とその背後にそびえる金剛山・葛城山・二上山　畝傍山より　2013. 5. 25.

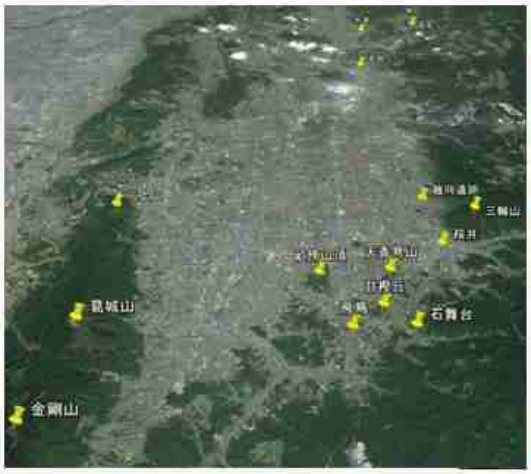
明日香から眺める 金剛山・葛城山・二上山を背にする奈良盆地西南部遠望
写真中央 手前左:甘樫丘 手前右:雷丘　右端:畝傍山

東方面　大和三山　天香具山

東南方面　飛鳥甘樫丘

大和三山「畝傍山」から眺める「くにのまほろば　大和」の展望　2013. 5. 25.

奈良盆地西南部とその背後にそびえる金剛山・葛城山・二上山　畝傍山より　2013. 5. 25.



畝傍山の北側の八木今井町方面

帰りは畝傍御陵前へ　まっすぐ東へ降りる道を選択　　登りの巻き道と違って、急な下り道

《　午後　　飛鳥周遊バスで飛鳥の地を巡って　飛鳥奥山の飛鳥資料館へ　2013.5.25　》

飛鳥はいつも歩くのですが、今回近鉄 1day パスについているバスチケットで初めて巡回バスに乗りました。

橿原神宮前から飛鳥の主要遺跡をほぼすべてを行ったりきたり巡回して飛鳥駅に行くバス。

乗客は数名　楽チンで観光バス気分で飛鳥を一回りできました。　2013.5.25.

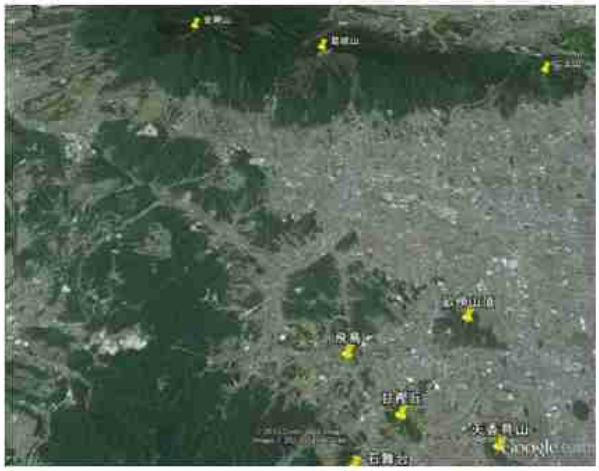
飛鳥の石造物は、飛鳥周辺に残る飛鳥時代に石で作られた遺物・遺構の総称で、飛鳥資料館の前にはそのレプリカが展示されている。

以前は謎だった酒船石も関連遺構が見つかって謎がとけはじめた。
でも、謎だらけの飛鳥の石造物、丘に座って、その謎を考えてみるのですが・・・

久しぶりの飛鳥、いつ来ても新鮮で、おもしろい場所である。

以前、キトラ古墳の壁画をみにきた飛鳥資料館、その展示の充実ぶりと一同に会している飛鳥の石造物が気に入りました。

明日香から眺める 金剛山・葛城山・二上山を背にする奈良盆地西南部遠望　飛鳥奥山2013. 5. 25.
写真中央 手前左:甘樫丘 手前右:雷丘　右端:畝傍山



甘樫丘の横より　南方面　飛鳥川